

カナダの金融市場動向 Weekly Report

【2018年11月24日～2018年11月30日の推移】

【1】先週の回顧

先週のカナダ・ドルは、対円でほぼ横ばいになりました。カナダ5年国債利回りは低下しました。

カナダ・ドルは対米ドルでは下落したものの、米株高により、投資家のリスク選好姿勢が強まったことなどを背景に円安が進行したため、対円では横ばいとなりました。カナダの金利に関しては、FRB（米国連邦準備制度理事会）高官が相次いで将来的な利上げ打ち止めを連想させる発言を行ない、米国金利が低下したことを受けて低下しました。

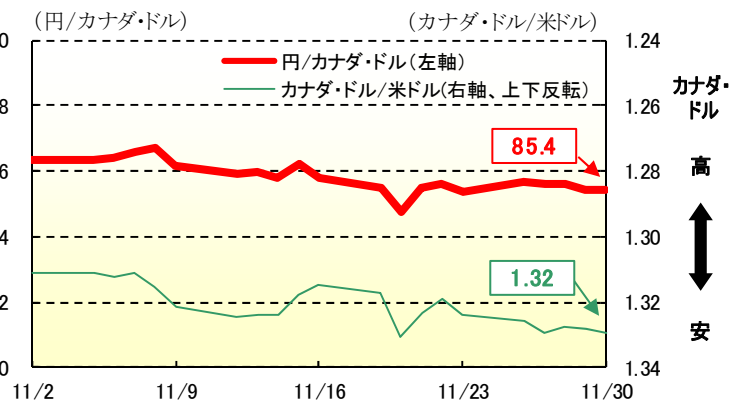
経済指標では、カナダの7-9月期GDP（国内総生産）が発表され、4-6月期と比べて景気が減速していることが確認されました。カナダ銀行（中央銀行）は企業投資の伸びがGDPを牽引すると期待していたものの、企業投資が減速している結果になっており、先行き景気にとって若干の不安材料となっています。

【2】今週の見通し

今週、カナダでは金融政策決定会合の開催が予定されており、政策金利は据え置きが予想されています。足元の原油価格下落ならびに、直近発表された軟調なGDPの結果を受けて、カナダ銀行の今後の利上げ見通しに関する声明に注目が集まります。また、カナダ、米国ともに雇用統計の発表が予定されています。

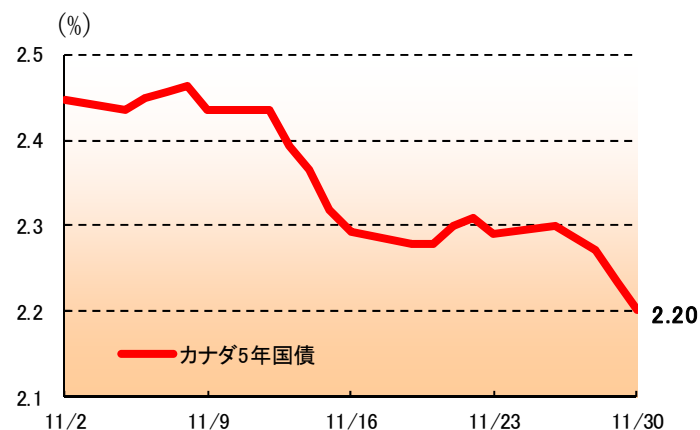
足元、軟調に推移していた原油価格ですが、ロシアとサウジアラビアが減産に関する合意の継続を発表したことや、カナダのアルバータ州が生産業者に一時的な減産を命じたことなどを背景に反発しています。原油価格が下げ止まることになれば、カナダの金利、通貨にとって好材料であると考えています。

【カナダ・ドル 為替推移】 (2018年11月2日～2018年11月30日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。
(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

【カナダ 金利推移】 (2018年11月2日～2018年11月30日)



(出所) Bloomberg等より大和投資信託作成

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託フリーダイヤル0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>